

令和３年度 瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体協議体会議での意見

地域資源について（令和３年度 第２回協議体会議での意見）

（地域資源）

- ・ もーやっこネットワークを活用した災害時マップの作成（瀬戸旭医師会）
…寝たきりの人等、要援護者をマッピング。
- ・ 菱野団地の地域住民の集いの場「駄菓子屋」「だべりば」の開催（瀬戸市自治連合会・瀬戸地域福祉を考える会まごころ）
…水曜と土曜の午前中に開催。１日に３０～５０人くらいの参加があり、その半数が高齢者。また、困っている家族もあり、こういった場で発散してもらいたい。対応が難しい場合は、基幹型や病院に共有し、支援している。
- ・ 小学生から８０歳まで参加している「バレーボールクラブ活動」（地区社協会長連絡会）
…高齢者は子どもを見て元気をもらっている。若い人も一緒になってできる活動を発掘したり、人が集まる場を利用して趣味が合う人を見つけてもらいたい。
- ・ 「ニコニコサロン」の開催（地区社協会長連絡会）
…ボッチャを開催したところ、とても人気だった。同じ趣味を持つ人を集めることも必要。

（意見）

- ・ 多世代の交流やスポーツを行うことは、結果的に高齢者の介護予防や外出機会の創出にも結び付く。（委員長）
- ・ 社会福祉協議会では、ボッチャやクロリティの貸し出しを行っているので、是活用していただきたい。（社会福祉協議会）
- ・ 男性はものづくりが好きということから、「ベンチプロジェクト」を行うのはどうか。街中に誰もが気軽に座れるベンチを置くことで、外出の際の休憩スポットに使ってもらい、外出しやすい街づくりにつなげるプロジェクト。ベンチづくりをものづくりが好きな高齢者にお願いすると良いのではないかな。（基幹型地域包括支援センター）
- ・ 現在、高齢者と大学生が一緒にベンチを作成する活動が行われている。（瀬戸地域福祉を考える会まごころ）

外出機会を創出するために必要なツールについて（令和３年度 第３回協議体会議での意見）

（ツール）

- ・ 医療機関に地域の集まりのパンフレットを置くのも良いと思う。高齢者にとって集まりが必要であることを家族の方にも周知していくことで、若い世代も巻き込んでいけるとよい。（瀬戸旭医師会）
- ・ 男性は広報を見ただけでは集まりには参加しづらく、会って勧めることでようやく行く気になるという話があった。また、デイサービスに通っている人が元気になったとしても、卒業後に行く場所がないため、デイサービスを卒業した人が働ける場所があるとよい。（基幹型地域包括支援センター）
- ・ ふるさと納税の返礼品として、お墓の定期清掃などのサービスを提供している自治体がある。シルバー人材センターでは、返礼品として高齢者が行うサービスの提供を検討、提案していきたい。（シルバー人材センター）
- ・ 男女でアプローチ方法を変えて取り組む必要がある。また、集まりに参加することにメリットがあるように、拠点づくり、外出機会の創出の動機付けしていくことが大切。（委員長）